

ワールドカフェとは

ワールドカフェの定義

- ワールドカフェの定義は、カフェでくつろいでいるようになりラックスした雰囲気のもと行われる会議のことです。
- 参加者は4～5人ずつに分かれ、テーブルごとに対話をするといったもので、**1,000人以上**でも実施できます。一定時間が過ぎれば、テーブルのメンバーを入れ替え、対話することを繰り返していきます。
- 少人数で対話をするすることで、相手の意見を聞きやすく、自分の意見も言いやすいのが特徴です。

ワールドカフェの意義と効果

- カフェでお茶をしているようなリラックスした雰囲気の中、テーマに沿った対話ができるため、さまざまなアイデアや意見を出しやすい
- 気持ちにゆとりを持って話し合いができる
- 相手の意見に自然と耳を傾けられる
- 自分の意見も尊重される
- 一体感を持った対話ができる
- メンバーの組み合わせを変えながら4～5人単位の小グループで話し合いを続けることで、あたかも参加者全員で話し合っているような効果を得られる

ワールドカフェの進め方（形式・手法）

1. 第一ラウンド（テーマについて探求）
2. 第二ラウンド（アイデアをやりとり）
3. 第三ラウンド（気づきや発見を統合）
4. 全体セッション（集合的な発見を収穫し、共有）

①第一ラウンド（テーマについて探求）

- 第一ラウンドでは**4～5名の少人数グループ**に分かれます。少人数にすることで、自分の意見を言いやすく、相手の意見を聞きやすい雰囲気づくりができるのです。
- テーブルに模造紙とペンを用意し、発表された1つの**テーマについて、模造紙に自由にメモをしながら話し合います。**

②第二ラウンド（アイデアをやりとり）

- 第二ラウンドでは**自由に他のテーブルに移動**します。その際テーブルには、テーブルホストとなった人だけが残し、他のメンバーは第一ラウンドとかぶらないよう他のテーブルに移動するのです。
- それぞれのテーブルに残ったテーブルホストは、新しいメンバーを迎えて簡単な自己紹介をした後、そのテーブルで話し合われた内容を説明し、その後同じテーマについて話し合いを続けます。

③第三ラウンド（気づきや発見を統合）

- 第三ラウンドでは、他のテーブルに散ったメンバーが**最初のテーブルに戻り、移動先で話し合った内容や得た情報などとともに、さまざまな意見やアイデアを出し合います。**

④全体セッション（集合的な発見を収穫し、共有）

- 第三ラウンドが終わった後の全体セッションでは**参加者全体での話し合いの場をつくり、それまでに出来たアイデアや意見を全員で共有**します。くつろいだ雰囲気の中、さまざまなアイデアや意見に出会うことができます。

※ラウンド数や時間、人数に決まりはない

ワールドカフェの特徴：テーブル

①模造紙の役割

- 模造紙は、思いついたことをメモするものです。テーブルホストはそれを使って、次のメンバーに前メンバーとの話し合いの内容を説明できるでしょう。議事録のような役割ともいえます。
- また、こういった経緯でそのようなアイデアが出たか、どういった話し合いが行われたか、などの足跡にもなります。図やイラストもあれば、より分かりやすくなるでしょう。

ワールドカフェの特徴：テーブル

② トーキングオブジェクトの役割

- 模造紙の上に各テーブルに1つずつ置かれます。
- **トーキングオブジェクトとは、「話をする人が手に持つアイテム」**のこと。

棒、石、ペン、ボール

など、テーブルの上で手渡せるものを置きます。

- **意見を言うとき、話す人がトーキングオブジェクトを持って話を始めます。**話が終わったらトーキングオブジェクトをテーブルの中央、元の場所に置きます。
- 話したいときに、トーキングオブジェクトを取って話を始めるという決まり事により、話し手と聞き手それぞれが自分の役割を意識できます。自分の話を周りは聞いてくれている、ことを実感できるのです。

席替えの効果

- 常に少人数で話し合いをするにもかかわらず、話し合いが終わった後は、参加者全員と話をしたような感覚になります。これが席替えの効果です。
- 席替えによって訪れる**新しいメンバーは、自分の意見やアイデアとともに前テーブルの意見やアイデアをもたらします**。これが繰り返されるため、何十人分の意見やアイデアを認識できるのです。

席替えの手順

- 各テーブルをそれぞれ「A、B、C、D」とし、そこに座る人をそれぞれ「A1、A2、A3、A4、B1、B2、B3、B4、C1、C2、C3、C4、D1、D2、D3、D4」としましょう。
- 1ラウンドが終わり2ラウンドになると、テーブルホストを残し、他の3人はそれぞれ別のテーブルに移動します。残ったテーブルホストのところには、新しい3人のメンバーが他のテーブルで行った話し合いの内容を持って訪れます。
- たとえば、A1が交流した人は、A2、A3、A4、B1、C1、D1となりますが、間接的には、B2、B3、B4、C2、C3、C4、D2、D3、D4の情報を得ることができます。さらに最終ラウンドのA2、A3、A4は、A1の間接的情報であるB2、B3、B4、C2、C3、C4、D2、D3、D4と交流できます。

